



ミクロネシア連邦首都ポンペイにある高校での交流の様子
(中央：大江和彦・海士町長、手前：高田健二・JICA職員)



ミクロネシア連邦

五輪をとおして「平和への想い」を継承

2019年8月～2022年3月

島根県隠岐郡海士町出身の故・宮田隆さんは、第二次世界大戦時の「ドーン」という爆撃音が、「トーン」という太鼓の音に変わった平和な時代の表現として「東京五輪音頭」を作詞されました。その「平和への想い」を継承するため、島前3町村（海士町・西ノ島町・知夫村）は、ミクロネシア連邦のホストタウンとなり、同地区との交流を進めてまいります。

【オリパラ東京大会2020に関連する代表的な取り組み】

- ① ジョン・フリッツ在京ミクロネシア連邦大使の島前3町村訪問と交流（2019年7月）
- ② 大江和彦・海士町長ほか5名によるミクロネシア連邦訪問と交流（2019年8月）
- ③ 安倍総理、パニュエロ・ミクロネシア連邦大統領と大江和彦・海士町長面談（2019年11月）
- ④ 海士町が中心となって作成した教材を、群馬県および福岡県で授業実践（2019年12月）
- ⑤ 海士町に出向している高田健二・JICA職員がホストタウンリーダー表彰受賞（2020年2月）

～活動や目指す成果～

(1) 両国の交流と学び合いをとおして持続可能な社会づくりを目指します。

「ないものはない」という海士町のスローガンのとおり、ミクロネシア連邦とともに、大切な自然や文化を維持しながらゆっくりとした発展をすることで、持続可能な社会づくりのモデルを目指します。そのためにも、相互での交流が行われるようなプログラムを実施していきます。

(2) スポーツによる協働事業による島前3町村の結びつきの強化

元オリンピック（シドニー五輪サッカー日本代表：森岡隆三さん、アテネ五輪サッカー日本代表：石川直宏さん等）との交流事業を、島前3町村で共同開催することで、それぞれの地域での思い出づくり、島前3町村の結びつきの強化を図ります。

(3) 国内外の自治体との連携によるレガシーの創出

大洋州地域のホストタウンとの連携事業（2019年12月に群馬県、福岡県で実施済）を、今後もより多く実施していくことにより、ともに元気な自治体となっていくレガシーを目指していきます。